

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	3893600019
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 慶雲
所在地	喜多郡内子町大瀬中央5652番3 (電話) 0893-47-0077
管理者	松田 幸博
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 19 年 10 月 31 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 7 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 6 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	9 人
非常勤	6 人
常勤換算	14 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	20, 000	円	その他の経費（月額）	6, 000	円	
敷金	有（ ）円		○ 無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無		有りの場合 償却の有無			
食材料費	朝食	240	円	昼食	380	円
	夕食	380	円	おやつ		円
	または1日当たり		1, 000	円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	11 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町が開発した山の上の造成地に建っており、町を一望し自然を満喫できる。ホームは日本家屋風でゆったりとした1フロア2ユニットで、明るくオープンな感じを受ける。開設して1年未満であり、職員と利用者が一緒になっていいホームをつくろうとしている様子を感じ取る事ができる。しかし、運営法人としてはすでに8か所のグループホームを開設しており、しっかりとした運営理念をもっており、協力医療機関との連携を強く、安心して確実なサービスを提供している。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

初回評価のため、前回評価はない。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

開設1年未満でなにもかもはじめてなので、全員で取り組んでいる。様々な見方があることに気づき、日々のケアの振り返りの機会となっている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

会議はホーム側の行事などの報告やお知らせが主な内容となっている。運営推進会議の意義を伝えて理解を得、積極的に参加してもらい、率直に意見交換できる会にしていくことが求められる。議題によってメンバーも幅を広げて増やし、地域のキーマンを見つけていくことを望む。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

暮らしぶりは毎月発行のホーム便りで詳しく知らせ、健康状態、金銭管理については、来訪時に必ず個別に伝えている。苦情相談対応窓口を周知し、意見箱も設けている。介護計画の見直し時に直接様々な意見要望を聞いて取り入れている。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

区費を支払い自治会に加入している。道路清掃、運動会、球技大会など、地域行事に積極的に参加しながら交流を深めている。さらに日常的に地域の方とふれ合う機会づくりなどの工夫を期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 慶雲

(ユニット名)

東 棟

記入者(管理者)

氏 名

松田 幸博

評価完了日

平成 19 年 9 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 各ユニットでスタッフ・入居者と一緒に理念を作っている。		
			(外部評価) 運営法人としての理念を大切にしながら、ユニットごとに職員全員で意見を出し、さらに利用者の意見も取り入れて、それぞれ独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフと入居者の見える位置に掲示し、共有できるようにしている。	※	ケアカンファレンスで定期的に評価していきたい。
			(外部評価) 毎日の生活に反映できるよう考えたものであり、一つひとつの場面で実践しようと努力している。特に地域の方を巻き込んで、笑顔が見られるようなホームにしたいと願っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を作ったまだ日が浅いので浸透していない。	※	毎日送っている新聞、地域にも回覧板等で理解してもらえるよう取り組みたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の時に会ったら挨拶をしている。	※	気軽に立ち寄ってもらえるよう日々近隣の人たちに挨拶をしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 道作りの参加・自治会主催の映画祭への参加等 (外部評価) 区費を支払い自治会に加入している。道路清掃、運動会など地域行事に積極的に参加しながら交流を深めている。	※	今後も交流の場を広げていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域への貢献はまだまだ不十分である。	※	事業所での行事に参加してもらえるよう、地域に呼びかけをする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価について認識はあるが、まだまだ浸透が不十分である。 (外部評価) 開設1年未満でなにかもはじめてなので、全員で取り組んでいる。様々な見方があることに気づき、日々のケアの振り返りの機会となっている。	※	今回の外部評価を受けスタッフが評価の意義を理解できるよう努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い、グループホームでの活動状況等の報告を行い、意見交換を行っている。	※	全スタッフが意義を理解していくように努めていきたい。
			(外部評価) 参加メンバーは少なく、運営推進会議の意義や役割を理解していないメンバーもいる。	※	会議を有意義に運営するためにも、意義を伝えて理解を得、積極的に参加してもらい、率直に意見交換できる会にしていくことが求められる。メンバーも議題によって幅を広げて増やし、地域のキーマンを見つけていくことが望ましい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月1回おこなっているグループホーム連絡協議会にて、必要に応じて市町村の担当者と意見交換をする機会を作っている。		
			(外部評価) 町内のグループホームで連絡会を設けており、会を通して行政と連携している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 取り組めていない。	※	研修等に積極的に参加し、権利擁護に関する知識を深め、全スタッフに浸透させていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケアカンファレンスで随時話し合っている。	※	今後研修会に参加し、全スタッフに浸透させていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明が出来るよう努力している。所々で質問がないか尋ねるよう取り組んでいる。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) オープンして半年程度、スタッフと入居者の信頼関係が築きつつあり、入居者がスタッフへ訴えることが多くなってきた。	※	今後、入居者一人一人とコミュニケーションを取る機会を作り気軽に訴えられるようにしたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 入居者の暮らしぶりは“青葉”の新聞で毎月報告、健康状態・金銭管理状況については面会時に報告をしている。	※	健康状態について異常がある時に主に報告しているので、面会時には異常以外の事も報告し、グループホームでの暮らしが理解できるよう取り組みたい。
			(外部評価) 暮らしぶりは毎月発行のホーム便りで詳しく知らせている。健康状態、金銭管理については来訪時に必ず個別に話している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に苦情等に関して記載している。又、グループホーム慶雲にも意見箱を設置。	※	意見を出してもらえよう、新聞等でも呼びかけていきたい。
			(外部評価) 苦情相談窓口を周知し、意見箱も設けている。介護計画の見直し時には直接様々な意見や要望を聞いて取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスを行い、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	※	機会は設けているが、スタッフが意見を述べる事が少ないので、積極的に発言が出来るよう働きかけていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 家族より希望がある場合は、できる範囲で行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) お別れ会を行い、入居者にも十分な説明を行っている。 (外部評価) 現在のところ異動はほとんどない。2ユニットがお互い見わたせる1フロアにあり、自由に交流できる状態にある利点を活かし、マンネリ化をふせぐためにユニット間の異動は今後検討している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 普段の業務内で担当を決め、責任を持って仕事をするよう働きかけている。 (外部評価) 運営法人が開催する研修会、南予地区のグループホームが開く研修会など様々な情報を提供し、個々の職員に応じた研修が受けられるよう配慮している。今後はホーム内での勉強会も実施していく予定である。	※	一部のスタッフしか研修に参加できていないので、全員が参加できるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月1回グループホーム連絡協議会を行い質の向上に取り組んでいる。	※	スタッフでの交流の場が持てるとよい。
			(外部評価) 町内のグループホームでネットワークをつくり、持ち回りで当番を引き受けて会議を開催するなど交流している。	※	地域のグループホームのネットワークを発展させて、職員の交流を各ホームのさらなるサービス向上につなげていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に親睦会を行っている。	※	業務内で休憩時間を作りたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 向上心を持って取り組めていない。	※	勤務年数・実績・勤務状況に対して評価し、向上心を持てるようにしてほしい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 個別に入居者とコミュニケーションを取り、よく話を聞く機会を作っている。	※	コミュニケーションにも偏りが見られるため、偏りをなくしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居者も必要な物を持ってきてもらえるよう気軽に声掛けしている。	※	今後は、家族会を開き信頼関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族から相談を受け、ケアカンファレンスにより話し合っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居者の意見を尊重してサービスしている件もあるが、家族の意見を尊重して進めることもあった。 (外部評価) 利用者、家族にグループホームの雰囲気を体験をしてもらい、自宅を訪問して顔なじみになり、納得してもらい馴染みながら入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理や畑仕事などを入居者から学んだり、支えあいながら行っている。 (外部評価) 同じ方言である利用者と同郷の話をしたり、料理なども利用者に教えてもらうことがよくある。	※	スタッフ中心になっている所があるので、入居者にも声掛け等行い改善していきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) こちらからの呼びかけに対しては協力してもらえるが、呼びかけなしではあまりできていない。	※	家族会を通して事業所でどのようなことをおこなっているのか知ってもらう。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族からの要望は受け入れるが、入居者からの要望はあまり受け入れていない。	※	入居者と家族のパイプになれるよう努力したい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人への手紙を書くことについての支援。馴染みの物があれば持参してもらうよう声掛けを行っている。	※	今後も継続して働きかけていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 孤立しがちな入居者への声掛け、役割りを行うようケアカンファレンスを通して話し合っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) お見舞い等に行き、様子を見たりコミュニケーションを取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを取り、思いや意向を聞き出すよう努めている。 (外部評価) 入居時には利用者の自宅を訪問して生活環境や暮らしぶりの理解をする手立てとしている。毎日の生活の中でできるだけ声かけをして思いの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人と家族よりこれまでの生活歴など聞き把握している。	※	面会時などにコミュニケーションを取り記録していきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録・経過観察記録に記録している。大切なことは申し送りノートにて対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを行って十分な話し合いのもと、家族にも話している。	※	研修に参加し、知識の向上に努める。
			(外部評価) 職員が分担して利用者を担当して介護計画を検討し、加えてケアカンファレンスで全職員の気づきを行って介護計画を作成し、それを基に家族の意見を聞き、個々の利用者に適切な介護計画を立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスにて話し合っている。3カ月に1回の同意を得ている。		
			(外部評価) 月1回のケアカンファレンスまでに各担当がケアプランの評価をしている。職員、家族、必要であれば医療関係者を交えて、3か月ごとに見直しを検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 情報の共有に十分に配慮した記録を行っている。	※	スタッフの記録に対する重要性の理解に欠けているため、今後記録の大切さを認識させる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族・本人の要望に応じて柔軟な支援を行っている。 (受診) (外部評価) 受診、外泊など利用者の要望に応えられるよう各種サービスを柔軟に提供している。	※	今後、いろいろな要望が出てくると思うが、柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 保育園と一緒に敬老会を行った。消防署協力のもと、非難訓練を行った。	※	他の地域資源との共同も取り組んでいきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 事例がまだない。	※	機会があれば行っていきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 事例がまだない。	※	今後、機会があれば行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の受診・支援を行っている。 (外部評価) 特別な疾患のある方以外は、医療機関と連携の上、かかりつけ医をホームの協力医療機関にもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。毎朝、協力医療機関から利用者一人ひとりの状態確認の電話がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神南診療所により対応している。また、家族の希望時、その病院で対応。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、神南診療所より電話があり、その日の状態を報告している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、主治医と相談し、早期退院に向けて努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に重度化についての資料を渡し説明。状態が悪化した時には今後の事について家族と主治医と話し合っている。 (外部評価) 詳細なマニュアルをつくり、重度化及び看取りに関する指針も定めて話し合いを行っているが、具体的な対応方針の共有がなされていない。	※	今後、具体的な対応方針の共有ができるよう勉強会を繰り返し、勤務体制や日常生活の中での看護支援体制などについても柔軟な対応が可能か検討、確認をしておくことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化時には、十分に主治医と話し合い、家族の了解を得て対応する。	※	終末期については今後どのように接していくか主治医・スタッフと検討していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時には十分に本人・家族に説明し納得した上で行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 記録等に関しては、イニシャルで記録している。契約時に、プライバシーの説明をし、情報の使用の同意を得て行っている。	※	言葉かけに気をつける。
			(外部評価) 声かけや尊厳に関わることには十分配慮しているが、カーテンを開くとベランダを通して居室の中が見通せ、また事務室等がオープンになっており、プライベートなことを話し合うスペースがない。	※	居室の窓にレースのカーテンをつけるなど居室のプライバシーに配慮する工夫について検討を期待する。広い共用空間をうまく利用して、安心してプライベートな話ができるスペースを確保することが望ましい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) つつい専門用語を使ってしまう。	※	入居者の身になって分かりやすく説明していく。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スタッフ優先の日課になっている。 (外部評価) 起床、食事、入浴など日常生活のリズムづくりのために声かけはするが、利用者の意思を大切にしている。居室で過ごす方、居間で過ごす方とその時々で希望することができるよう支援している。	※	ゆとりをもって仕事ができるようにする。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 出張美容の時には、本人の主張のもと行っている。	※	外出時などは化粧療法などを行っていききたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備と片付けは一緒に行っているが、時間におわれ一緒に食べることが困難である。 (外部評価) 可能な利用者は配膳や片付けを自然に手伝い、ごく当たり前の日常的な会話をしながら楽しんで食事している。食事介助をしていて食事がおそくなった職員のことを心配している利用者もあり、それとなくねぎらいの言葉かけがある。	※	今後、一緒に食事が出来るようにしていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好についてはまだ聞き取りが出来ていない。	※	コミュニケーションを取りながら聞き取っていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ケアプランを通して実施はしている。オムツ係りを作り排泄パターンをチェックしている。	※	よりよくなるよう関わっていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日や時間は決めず出来るだけ本人の意志を聞いている。 (外部評価) 回数や時間帯など、一人ひとりの希望にそった支援をしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意志のもと、休息したい時には休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴の把握が不十分である。役割りづけは出来ているが、楽しみや気晴らしは不十分である。 (外部評価) 洗濯物干し、片付け、散歩、体操、ぬり絵等の趣味の活動など、思い思いのことができるよう支援している。	※	コミュニケーションを取り生活歴を聞いていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の希望もあり大きなお金はこちらで管理し、小さなお金は本人が管理している人もいる。基本的にこちらで管理している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) スタッフの見守りのもと外出は行っているが、スタッフ中心になっているため個別での外出はなかなか出ていない。 (外部評価) 周りに人家があまりない立地条件のため、自然や季節を感じながら散歩を楽しんでいる。畑作業をしている近所の方と話をすることもある。	※	ゆとりをもって仕事ができるようにする。又、家族の協力のもと、外出支援ができるように努めたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 月の外出は、事前に入居者に行きたいところを聞き、可能な限り尊重して外出している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフが仲介となって電話支援を行っている。入居者の中には手紙を書き郵送するなどの支援を行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族の協力のもと、知人・友人の訪問が多くある。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に対する知識が不十分である。	※	研修等に積極的に参加し、身体拘束に関する知識を深め、全スタッフに浸透させていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけず自由に行き来している。 (外部評価) 居室以外にはドアや仕切りをつくらないほどオープンにしており、自由に外へ出かけられる。職員は常に寄り添うようにしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) フロアに必ずスタッフ1名が待機し安全の確認をするように気をつけている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 家族と相談をしながら危険がおよぶ物はこちらで預かっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリ・ハットノートに記録し、ケアカンファレンスで話し合い事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急の講習を受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 避難訓練等は行っているが、地域での対策は行っていない。 (外部評価) 避難訓練を実施しており、利用者はパニックになることもなく、スムーズにできている。消防士による救命救急法も受講している。	※ ※	運営推進会議を通して地域へ働きかけたい。 地域住民との連携が取れるよう運営推進会議等を通じて日頃から協力を依頼し、小高い山の上という立地から取水なども確認しながら地元消防団にも協力体制を依頼しておくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 神南診療所の協力のもとでリスク対応を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェックで体調管理をしている。申し送りノートを通して情報を共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 資料はあるがまだまだ知識不足である。	※	スタッフ一人一人が責任を持って薬の作用を理解する。必要に応じて勉強会を開きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示のもと、マッサージ等を行っている。	※	食事のメニューで食物繊維の摂取等に気をつける。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 週1回のポリデントにて洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量と水分摂取量の記録を行っている。 (外部評価) 食事摂取量の記録や、水分確保を支援しているが、目標値の把握はしていない。	※	利用者それぞれに一日でどれくらいのカロリーや栄養が必要で、どれくらい食べると達成できるか、水分についてもおおよその必要量と摂取量を把握することを、全職員が意識して関わることを望む。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗い、アルコール消毒を行っている。	※	インフルエンザに関しては、今後予防接種を行う予定である。感染症マニュアルが不十分なので今後検討していきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日の配達にて新鮮な物が送られている。毎日、まな板・布巾を消毒している。	※	食中毒についての勉強会も行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 出来るだけ玄関を開けて入りやすい状況を作っている。	※	玄関に表札を作り入りやすい状況を作っていきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 誰も見ていないのにテレビがついていたり、電気のつけっぱなし、季節感があまりない。 (外部評価) 共用空間は十分な広さがあり、ソファなどの家具の配置を工夫してくつろげる場所をつくっている。キッチン是对面式で使いやすく、調理する人とリビングに居る人とが生活感を共有できる。	※	季節感のある物を多く取り入れていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座り、日光浴など行うことが出来ている。席順も仲の良い入居者となるべく一緒にするように配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ってきてもらうよう、随時声掛けている。 (外部評価) 馴染みのものを持ち込んでいる利用者もいるが、その人らしさが感じられ安心でほっとするという工夫が乏しい居室もある。	※	居室に入ると病室のようなカーテンがかかっているが、個々に利用者の好みを感じられるような工夫がほしい。居室同士が向かい合う大きなガラス戸には、プライバシーが守られるようレースのカーテンを下げて目隠しするなどの工夫で安心できる居場所になるよう配慮することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 室温計がないので、空調・外気温との調整が困難である。	※	室温計を購入し、空調・外気温の調整が出来るよう努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり・バリアフリーなど考慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者にとって十分な表示は出来ており、困難なく過ごせている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 自由にデッキにて日光浴・散歩をされている。	※	デッキにベンチやテーブルを置きよりよく過ごしてもらえよう工夫する。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	コミュニケーションが取れる方に偏っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	入居者はゆったりとしているが、スタッフにまだまだ余裕のない時がある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体状況の良い入居者のペースで日課が進んでいる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフのペースになって入居者の思い通りにいかない事もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフ間に余裕がないため、言葉による抑制がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月2回の往診と体調不良時は神南診療所にて受けている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人・家族の状況により、十分な支援が出来ていない事がある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	本人・家族の状況により、十分な支援が出来ていない事がある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	開設当初は多かったが、今は減ってきている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議により、地域の方の理解が少しずつ得れている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士、仲良くできている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ケアプランは家族の意向がどちらかといえば強いように思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ケアプランに関してまだまだ無関心な家族が多いように感じる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・笑顔で挨拶 ・笑顔で仲良く ・笑顔で助け合い 以上の3つを東棟の理念として日々努力しています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム慶雲

(ユニット名)

西棟

記入者(管理者)

氏 名

松田幸博・佐海温子

評価完了日

平成 19 年 10 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 会社全体での理念が3つあり、各ユニットのフロアに掲示している。また、西棟フロアの理念も、利用者の意見を聞きながらスタッフ全員で考えた。フロアに掲示し、実践に向けて努力している。	※	フロア理念3つめの「家族や地域との交流を深め、生きがいを持てる」を実践できるように、グループホーム慶雲を地域にアピールしていきたい。
			(外部評価) 運営法人としての理念を大切にしながら、ユニットごとに職員全員で意見を出し、さらに利用者の意見も取り入れて、それぞれ独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 西棟フロアがオープンして半年であり、これからは理念の実践とともに、質の向上を図っていきたい。	※	全職員が理念について理解し、実践に向けて努力したい。
			(外部評価) 毎日の生活に反映できるよう考えたものであり、一つひとつの場面で実践しようと努力している。特に地域の方を巻き込んで、笑顔が見られるようなホームにしたいと願っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には入居契約時に説明しており、地域の人々には運営推進会議や広報などを通して理解してもらえるよう努力しているが、まだまだ浸透していない。	※	家族には家族会等を通して、地域の方には地域行事や地域での集まりに参加して呼びかけ、理念を理解してもらえるよう取り組んでいきたい

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方から来られることはあまりないが、散歩の時などには挨拶をして声を掛けている。	※	お祭りなどの地域行事には積極的に参加していきたい。ホームに気軽に立ち寄ってもらえるように、これからも気持ちの良い挨拶を心掛け交流を深めていきたいと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地元で行われた映画祭や草かりをする道作づくりには積極的に参加している。 (外部評価) 区費を支払い自治会に加入している。道路清掃、運動会など地域行事に積極的に参加しながら交流を深めている。	※	今後も地域で行われる行事に参加させて頂き、交流を深めていきたい。また、道づくり等のスタッフが出来る仕事があれば、積極的に参加して、地域に少しでも貢献できればと思っている。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 周辺地域は高齢化が進んでいるが、まだまだ現状を把握できていない。事業所の力を地域高齢者の暮らしに役立てるまでには至っていない。	※	ホーム内行事に地域の方を招いて参加して頂く。年末のもちつき等への呼びかけを検討している。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) グループホーム慶雲のオープンから、今回初めての外部評価で、職員のほとんどが初めての経験ということもあり、理解不足である。 (外部評価) 開設1年未満でなにかもはじめてなので、全員で取り組んでいる。様々な見方があることに気づき、日々のケアの振り返りの機会となっている。	※	今回、職員全員で自己評価を行ったので、外部評価とはどんなものなのか理解し、今後活かしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回、会議を開催しており、毎回議題を考え意見交換している。まだ回数は少ないが、参加者の意見を大切に、今後活かしていきたいと努力している。	※	地域の方や家族の意見も取り入れながら、より充実した会議になるよう努力していきたい。
			(外部評価) 参加メンバーは少なく、運営推進会議の意義や役割を理解していないメンバーもいる。	※	会議を有意義に運営するためにも、意義を伝えて理解を得、積極的に参加してもらい、率直に意見交換できる会にしていくことが求められる。メンバーも議題によって幅を広げて増やし、地域のキーマンを見つけていくことが望ましい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 町内の5つのグループホームが集まる、グループホーム連絡会議が毎月1回行われている。9月には合同運動会を行い、行政職員の方にも来て頂いた。	※	地域の方や家族の意見も取り入れながら、より充実した会議になるよう努力していきたい。
			(外部評価) 町内のグループホームで連絡会を設けており、会を通して行政と連携している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員は勉強する機会があり参加しているが、全職員の理解には不足する点がある。	※	権利擁護に関する制度についての研修会に一人でも多くの職員が参加していきたい。また、参加した職員は全職員に伝えられるよう勉強会を行っていききたいと思う。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 一部の職員は勉強する機会があり参加しているが、全職員の理解には不足する点がある。	※	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待防止の徹底に努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書に沿って説明している。その都度質問に答えながら、理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者一人ひとりの意見を聞けるように配慮しているが、外部者へ表せる機会はなかなか設けられていない。	※	利用者にも意見箱を利用してもらえるように呼びかける。利用者の家族から、不満を言われていないか聞く。信頼関係を築き、利用者が遠慮せずに不満を言える職員になる。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) ご家族の面会時には利用者の生活状況についてお話している。金銭出納帳も確認してもらっている。また、遠方に住んでおられる家族には、電話で状態を報告している。		
			(外部評価) 暮らしぶりは毎月発行のホーム便りで詳しく知らせている。健康状態、金銭管理については来訪時に必ず個別に話している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に苦情を受け付ける場所を明示している。また意見箱を設置し、来訪者が自由に書いて入れられるようにしている。	※	家族の意見に耳を傾け、よりよいグループホーム作りに取り組んでいきたい。
			(外部評価) 苦情相談窓口を周知し、意見箱も設けている。介護計画の見直し時には直接様々な意見や要望を聞いて取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回業務カンファレンスを行い、職員の意見を聞いている。	※	職員一人ひとりの意見や提案を聞いて、利用者にとっても職員にとっても良いグループホームにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じた勤務の調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 会社内にある他の部署への異動があるが、必要最小限に抑えている。代わる場合には利用者にもきちんと伝え、お別れ会をしている。混乱のないよう配慮して行っている。 (外部評価) 現在のところ異動はほとんどない。2ユニットがお互い見わたせる1フロアにあり、自由に交流できる状態にある利点を活かし、マンネリ化をふせぐためにユニット間の異動は今後検討している。	※	異動や離職等で職員が代わった場合には、新しい職員にもできるだけ早く慣れてもらい、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各研修に参加する機会がある。また、社内では月1回ホーム長会議を実施し、意見交換をして質の向上に努めている。 (外部評価) 運営法人が開催する研修会、南予地区のグループホームが開く研修会など様々な情報を提供し、個々の職員に応じた研修が受けられるよう配慮している。今後はホーム内での勉強会も実施していく予定である。	※	事業所独特の勉強会も行っていけたらと思っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 毎月1回、町内のグループホーム管理者が集まり、情報交換をしている。それを業務カンファレンスで報告するようにしている。 (外部評価) 町内のグループホームでネットワークをつくり、持ち回りで当番を引き受けて会議を開催するなど交流している。	※	地域のグループホームのネットワークを発展させて、職員の交流を各ホームのさらなるサービス向上につなげていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会を行い、ストレスを軽減できる場を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、職員個々の実績や勤務状況を把握している。	※	一人ひとりが向上心を持って、資格取得や研修会への参加に取り組んでいきたい。まずは意識を変えることからだと思っている。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学をして頂き、ご本人の意向や訴えを聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学をして頂き、ご家族の困っていることや要望を聴くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 現状とこれからのことを考えた上で、ご本人とご家族にとって必要な支援ができるよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前にホーム内の見学をしてもらっている。入居初日には、できるだけ長く家族の方と一緒に過ごしてもらい徐々に馴染めるようにしている。 (外部評価) 利用者、家族にグループホームの雰囲気を体験してもらい、自宅を訪問して顔なじみになり、納得してもらい馴染みながら入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ケアプランとして日課に参加してもらうことを取り入れ、実践している。コミュニケーションを通して、ご本人の人生経験等から様々なことを教えてもらっている。 (外部評価) 同じ方言である利用者と同郷の話をしたり、料理なども利用者に教えてもらうことがよくある。	※	利用者それぞれのできることをもっと見つけて、スタッフと一緒にしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアプランや生活状況について、ご家族に説明し、協力してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人から家族のことを聞きだせるような声かけをしている。面会時には居室でゆっくりとお茶を飲みながら話をしてもらっている。	※	家族会をまだ行っていないので実施し、利用者と家族、スタッフとの交流を図りたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりを行っていい。	※	プライバシーに配慮しながら支援していきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士での会話がよく見られる。時にトラブルもみられるが、スタッフが間に入って対応している。	※	なかなか中に入っていけない入居者もいる。みんなで協力して何かを行う機会をもつ。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院により退去となった利用者の方やそのご家族とは連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ある程度、日課の時間は決まっているが、本人の意見も聞いている。どんな生活を送っていききたいか、一人ひとりの思いを聞いているが、個別ケアの実践には至っていないところが多い。 (外部評価) 入居時には利用者の自宅を訪問して生活環境や暮らしぶりの理解をする手立てとしている。毎日の生活の中でできるだけ声かけをして思いの把握に努めている。	※	コミュニケーションを十分にとりながら一人ひとりの思いを大切にしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の事前調査である程度把握しておき入居後に分からないことがあれば、家族に尋ねている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 事前調査にて、入居前の生活について把握している。変わったことがあれば申し送りしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人や家族の希望を聞いて、ケアプランを作成している。ケアカンファレンスでアセスメント報告をしてからスタッフの意見を取り入れ計画している。 (外部評価) 職員が分担して利用者を担当して介護計画を検討し、加えてケアカンファレンスで全職員の気づきを行って介護計画を作成し、それを基に家族の意見を聞き、個々の利用者に適切な介護計画を立てている。	※	ケアプラン作成時だけでなく、利用者の普段からの思いに耳を傾け、利用者本位のプランであるようにしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月1回ケアカンファレンスを行い、ケアプランの評価、見直しを行っている。現状に即した計画を作成している。 (外部評価) 月1回のケアカンファレンスまでに各担当がケアプランの評価をしている。職員、家族、必要であれば医療関係者を交えて、3か月ごとに見直しを検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録には、ケアプランの実施状況が分かるように記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診など本人・家族の状況に応じて対応している。 協力医療機関があり、毎日の状態報告は、事業所独特の特性をもっている。 (外部評価) 受診、外泊など利用者の要望に応えられるよう各種サービスを柔軟に提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 保育園児や地域のサロンの方に来てもらい、交流をした。消防署の協力のもと、避難訓練が実施できた。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ行ってない。	※	機会があれば地域のサロンなどに参加できたらいい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在では、まだ事例がない。	※	必要に応じて、地域包括支援センターと協働できるように連絡をとっていきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医と事業所の関係を築き、受診・往診等の支援を行っている。 (外部評価) 特別な疾患のある方以外は、医療機関と連携の上、かかりつけ医をホームの協力医療機関にもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。毎朝、協力医療機関から利用者一人ひとりの状態確認の電話がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神南診療所にて対応している。また、専門の協力医療機関がある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、神南診療所より、電話があり、1日の状態報告をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、主治医と相談し、情報交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居契約時に、終末期医療についての資料を渡して説明し、状態が悪化したときには、家族や主治医と相談している。 (外部評価) 詳細なマニュアルをつくり、重度化及び看取りに関する指針も定めて話し合いを行っているが、具体的な対応方針の共有がなされていない。	※	今後、具体的な対応方針の共有ができるよう勉強会を繰り返し、勤務体制や日常生活の中での看護支援体制などについても柔軟な対応が可能か検討、確認をしておくことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化・終末期には、主治医と話し合い、家族にも十分な説明を行った上で対応する。	※	チームとしての支援ができるよう、スタッフ間での話し合いを行っていききたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人・家族に説明し、納得してもらった上でおこなっている。	※	十分な情報交換をする必要がある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーに配慮した対応を心掛けている。記録等も個別で管理し、イニシャルを使っている。個人情報については契約時に説明・同意を得ている。	※	面会簿の個人情報保護については、今後検討していく必要がある。
			(外部評価) 声かけや尊厳に関わることには十分配慮しているが、カーテンを開くとベランダを通して居室の中が見通せ、また事務室等がオープンになっており、プライベートなことを話し合うスペースがない。	※	居室の窓にレースのカーテンをつけるなど居室のプライバシーに配慮する工夫について検討を期待する。広い共用空間をうまく利用して、安心してプライベートな話ができるスペースを確保することが望ましい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた支援を行っているが、まだまだ行き届いていない点はある。	※	本人の意見をよく聞いて、わかりやすい言葉で説明するようにしたい。一人ひとりの能力を見極めることも大事である。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に応じた個別支援はまだまだできていない。 (外部評価) 起床、食事、入浴など日常生活のリズムづくりのために声かけはするが、利用者の意思を大切にしている。居室で過ごす方、居間で過ごす方とその時々で希望することができるよう支援している。	※	スタッフがもっと余裕を持つ。 職員一人ひとりの質を上げて、臨機応変に対応できるようにになりたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の望む店に行かれる方、ホームでの出張理容・美容サービスを利用される方がいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に食事を準備することもあるが、ほとんど職員が作っている。食事は一緒にするようにしている。 (外部評価) 可能な利用者は配膳や片付けを自然に手伝い、ごく当たり前の日常的な会話をしながら楽しんで食事している。食事介助をしていて食事がおそくなった職員のことを心配している利用者もあり、それとなくねぎらいの言葉かけがある。	※	もっと利用者に食事作りや後片付けに参加してもらい、スタッフが教えてもらえるような立場になりたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 牛乳をとっている人、お酒を飲む人、好きなものを飲む人、一人ひとりの状況に合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェックをし、一人ひとりの排泄パターンを把握して、気持ちよく排泄できるよう支援している。	※	排泄パターンを把握した上で、排泄の自立支援に努力していきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 業務の都合で、どうしても希望にそえない時もあるが、基本的には曜日・時間帯をきめず、一人ひとりの希望に合わせて行っている。 (外部評価) 回数や時間帯など、一人ひとりの希望にそった支援をしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその日の体調等に合わせて、休息がとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ケアプランを通して、一人ひとりの役割や楽しみを見つけられるように支援しているが実践には至っていないことが多い。 (外部評価) 洗濯物干し、片付け、散歩、体操、ぬり絵等の趣味の活動など、思い思いのことができるよう支援している。	※	利用者一人ひとりの楽しみや役割をもっともっと見つけていけたらと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 高額なお金は事業所の方で預かっているが、少ない額であれば本人が持っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩等、近隣への外出は日常的に行っている。	※	中には外出を好まない利用者もいるので、その気持ちを踏まえながらできる範囲で行っていきたい。
			(外部評価) 周りに人家があまりない立地条件のため、自然や季節を感じながら散歩を楽しんでいる。畑作業をしている近所の方と話をすることもある。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ホーム内の行事に関しては一人ひとりの意見や希望を聞いているが、個別的な外出支援はなかなかできていない。	※	家族の協力のもと、一人ひとりの希望に沿った外出支援ができればと思っている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば取りつぎを行っている。手紙のやり取りをされる方もいる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 馴染みの人たちが、いつでも訪問できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を、理解できていない。	※	研修への参加、勉強会を通して、理解できるようにしたい。また職員間でも話し合いを行っていききたい
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフが見守りをし、鍵をかけないようにしている。入り口のドアを開けるとチャイムが鳴るようになっている。 (外部評価) 居室以外にはドアや仕切りをつくらないほどオープンにしており、自由に外へ出かけられる。職員は常に寄り添うようにしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 夜間はフロアに必ず1名が待機し、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居時に家族と相談しながら、一人ひとりの状態に応じて行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリ・ハットノートの活用、再発防止の為の話し合いを行っている。しかし、まだまだ知識不足な点が多く不安もある。	※	リスクマネジメント等の勉強会を行っていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な救命講習を実施している。	※	繰り返し学習する。 日頃から発生に備えた意識をもつことも大切だと思う。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的な避難訓練を行っているが、地域の人々の協力を働きかけはまだまだできていない。 (外部評価) 避難訓練を実施しており、利用者はパニックになることもなく、スムーズにできている。消防士による救命救急法も受講している。	※ ※	地域との交流をもち、グループホームの入居者について知って頂く。地元消防団との連携を図る。 地域住民との連携が取れるよう運営推進会議等を通じて日頃から協力を依頼し、小高い山の上という立地から取水なども確認しながら地元消防団にも協力体制を依頼しておくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族に現状を報告し、リスク対応について話し合いをもつようにしている。	※	家族との話し合いが十分にはできていないので、今後は具体的な対応策について話す時間を持ちたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行っている。また急変時にもバイタルチェックは必ず行い、職員間での情報を共有し、主治医に連絡する等の対応をしている。	※	利用者の普段の状態をよく知っておく必要がある。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが使用している薬について、表などに分かりやすく表している。薬係はおおよそ把握できているが、全職員には理解できていない。	※	薬についての知識をもち、一人ひとりの服薬状況が理解できるように勉強会を行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量をチェックし、十分な水分をとってもらっている。できるだけ運動をしてもらうように声かけし、毎朝の体操に参加して頂く。主治医の指示のもと服薬管理している。	※	便秘される方が多く、薬に頼っているところがある。食生活や運動量等を見直し、便秘しない対策を考えたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアのチェックを行い、食後の歯磨き声かけ、一部介助をしている。週1回は義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。	※	洗面所が自室にありほとんどの方が自立しているため、声かけ程度になってしまっている。きちんと確認し、口腔状態を把握できるようにしたい。今後は力を入れていきたいと思っている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分摂取量について観察し、記録している。一人ひとりの好みや習慣に応じて、水分確保に努めている。 (外部評価) 食事摂取量の記録や、水分確保を支援しているが、目標値の把握はしていない。	※	利用者それぞれに一日でどれくらいのカロリーや栄養が必要で、どれくらい食べると達成できるか、水分についてもおおその必要量と摂取量を把握することを、全職員が意識して関わることを望む。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗い、アルコール消毒を行っている。感染症予防についての職員の知識が不十分である。	※	勉強会、研修会等に参加し、一人ひとりの知識向上を図る。感染症対策マニュアルを実践する。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、ふきん等は毎日消毒するようにしている。調理時にはエプロンを使用し、清潔にしている。食材は新鮮なものを配達してもらっている。	※	台所の清潔保持について、環境整備係を中心に検討していく。食中毒についての知識を高める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関はできるだけ開けておき、訪問客が入りやすいようにしている。	※	中には、入るのをとまどいインターホンを鳴らす方もいる。気軽に入って頂けるような親しみのある雰囲気を作りたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアには写真やその季節にあったちぎり絵等を作成し、掲示している。特に夏場は西日が強いのですだれを使用し季節感を出している。 (外部評価) 共用空間は十分な広さがあり、ソファなどの家具の配置を工夫してくつろげる場所をつくっている。キッチン是对面式で使いやすく、調理する人とリビングに居る人とが生活感を共有できる。	※	季節感を感じられる工夫をもっとしていきたい。居心地よく過ごせるように、入居者や家族の意見も聞いていきたい。テレビの音量等不快にならないよう気を付けていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアのソファでくつろぎながらテレビを見たり、椅子に座って気の合う方同士で話したりしている。個室で独りになれる時間もある。	※	中には気の合わない方もおられるので、スタッフが配慮し、お互いに居心地のよい空間を作って行きたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具やベッドは備えつけのものもあるが、馴染みのある家具や電化製品などを持ってきてもらうようお願いしている。 (外部評価) 馴染みのものを持ち込んでいる利用者もいるが、その人らしさが感じられ安心でほっとするという工夫が乏しい居室もある。	※ ※	居心地のよい、個性あふれる部屋作りを支援していきたい。馴染みのあるものだけでなく、これから作られる思いでも部屋に飾っていかれたらと思う。 居室に入ると病室のようなカーテンがかかっているが、個々に利用者の好みを感じられるような工夫がほしい。居室同士が向かい合う大きなガラス戸には、プライバシーが守られるようレースのカーテンを下げて目隠しするなどの工夫で安心できる居場所になるよう配慮することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 消臭剤や芳香剤を使用し、においには気を付けている。スタッフの判断で温度調節をしないよう入居者の声を聞いて行っている。	※	室温計を全部屋に設置し、外気温との大きな差がないように配慮したい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内のほとんどの場所に手すりがあり、安全に自立した生活が送れるよう工夫してある。	※	建物のバリアフリーに頼ってしまわず、一人ひとりの身体状況に合わせた見守りを行う。掃除機のコード等、ちょっとしたことでも気にかけて、安全な環境づくりに努めたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとり合わせた声かけ、対応を心がけている。利用者の立場に立って混乱や失敗を防げるよう配慮している。	※	言葉を工夫したり、言葉で分からない方には表現して伝える。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) テラスを自由に散歩したり、景色を眺めたりして楽しまれている。	※	テラスにテーブルや椅子等を置いてもっと利用しやすく工夫したい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 利用者の思いを聞き入れ、希望に答えている。なかなか自分の気持ちを表すことができない人の思いにも気付くようにしていきたい。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない スタッフが業務追われ余裕がない。もっと要領よく仕事を行えたらいい。1日の中でゆったりと過ごす時間を作りたい。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない ほとんどの利用者のご自分のペースで過ごされていると思うが、介助の必要な人ほど、スタッフのペースになりがちである。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 散歩、レクリエーション等スタッフの支援で笑顔がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 散歩には行ってもらうが、行きたいところに自由に行くことはあまりできない。「どこに行くの?」と、抑制してしまうときもある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 神南診療所の往診があり、健康管理ができています。スタッフの声かけ、見守りで安全に過ごせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない できる限り要望に答えているが、一人ひとりの希望には答えられないこともある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない やっと家族のことが分かるようになったところで、一人一人の職員と家族の関係はまだ浅い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない 回覧板の受け渡しに尋ねて来られる程度であり、頻繁にはない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議の回数を重ねるごとに、少しずつつながりができてきていると思う。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	仕事がかまくらに落ち込むこともあり、むいていなと感じることもある。事故や救急時など心配・不安な面が多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	あまり不満を言われることがないので、満足されている部分が多いのではないと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	「グループホームに入居してから、利用者も家族も安心できる」といった声を家族から聞くことがある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者とスタッフが、気持ちの良い挨拶で1日をスタートできます。

スタッフは介護の仕事が初めてという人も多いのですが、日々勉強しながら頑張っています。

建物では、見晴らしの良いテラスが自慢で、利用者の皆さんにも気持ちよく散歩ができると好評です。

毎朝6時30分からの体操には、ほぼ全員参加され、健康な体づくりに励んでいます。

フロアの理念は、利用者の意見も取り入れながら、スタッフ全員で考えました。

1、笑顔で自由に、自分らしく生活できる。

2、おいしく食事ができて、健康に暮らせる。

3、家族や地域との交流を深